

青森県総合社会教育センター主催事業報告

五所川原第二中学校 ワークショップ

1 ワークショップに係る学校の要望等

企画の 카테고리	<input checked="" type="checkbox"/> 高校・大学進学 <input checked="" type="checkbox"/> 将来の進路 <input type="checkbox"/> 多様な価値観 <input type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> その他
実施する目的	本事業の活動を自分の将来や生き方に関して考えるきっかけとし、よりよいキャリア形成を図ろうとする意識を高める。
ワークショップ終了後の目指す姿	将来や生き方について主体的に考え、普段の生活の中で活かそうとする生徒

2 要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「可能性」

このワークショップのカテゴリは将来の進路で、実施する目的は「本事業の活動を自分の将来や生き方に関して考えるきっかけとし、よりよいキャリア形成を図ろうとする意識を高める。」であることから、テーマは「可能性」としてワークショップを進めます。

このテーマとした理由は、このワークショップを通して、中学生の皆さんの前にあるたくさんの可能性に気づいて欲しいということです。このワークショップで自分が将来やりたいこと、続けていたいこと、挑戦したいことについて向き合い、考えていくことを通して、目の前のたくさんの可能性に気づくきっかけとして欲しいです。また、自分の将来についてわくわくしながら考える時間を大切にしたいです。

この目的を意識しながら進めていき、将来や生き方について主体的に考え、普段の生活の中で活かそうとする生徒の達成を目指していきたいと考えます。

3 参加生徒数

第1～3学年 46名

4 報告

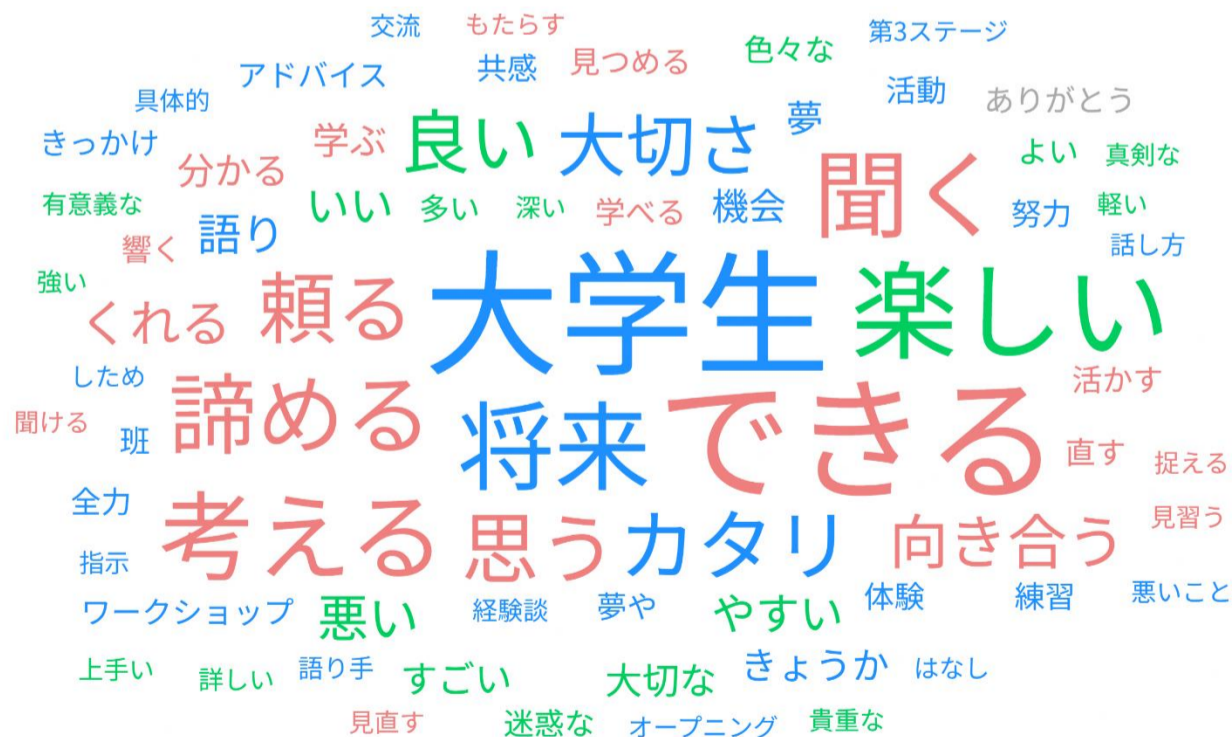
(1) 参加生徒へのアンケート結果 (有効回答数46名、有効回答率100%)

ア 有意義度調査

1 ワークショップは有意義でしたか?	3.80
2 ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか?	3.72
3 ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか?	3.74

※アンケートはすべて4件法で実施。数字が多いほうが高評価。

イ 自由記述によるテキストマイニング分析



大学生の語りやワークショップを通して、参加者は「諦めることは必ずしも悪ではない」「誰かに頼ることは必要で迷惑ではない」と学び、自分と向き合い将来や夢について具体的に考え直す機会を得た。語り手の実体験に基づく話し方が説得力を持ち、フレンドリーで話しやすい雰囲気が場をつくり、グループ活動やゲームを通して楽しく学べた点が好評だった。

(2) 学校へのアンケート結果

1 ワークショップの満足度は?	5
2 学校としての実施目的の達成度は?	4
3 生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか?	4

※アンケートは5件法で実施。数字が多いほうが高評価。